

教育研究業績

2025年 5月 23日

氏名 八田史絵

研究分野 学位

看護教育学 修士（看護学）

研究のキーワード

指導看護師、新人看護師、OJT、新人教育、ジェネレーションギャップ、人材育成

事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書, 教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 医療看護学部助手（看護臨床）	2022年4月～2025年3月	臨床実習指導者に加え、順天堂大学医療看護学部助手（看護臨床）を併任し、看護基礎教育の指導をした。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 プリセプターとして新人教育	2000年4月～2002年3月 2005年4月～2007年3月 2007年4月～2017年3月	長野松代総合病院ICU・HCU病棟にてプリセプターとして新人教育を担当した。OJTだけでなく、新人看護師が作成・記入してくる自己学習ノートを交換日記のように使用し、新人の学習と実際の患者の病態や術式・術後の様子や治療内容、当院でのやり方などをプリセプターが書き込むことで、新人が学習内容を深め、看護実践に繋がられるよう指導した。 日本大学医学部附属板橋病院救命救急センターにてプリセプターとして新人指導のOJTを実施した。プリセプティには、救命センター内で統一されたチェックリストに則って、知識・技術のチェックと評価を実施することで、救命センターに搬送される多種多様な患者の看護について、自己学習と臨床での実際を照らし合わせ、看護実践能力と知識の習得ができるよう指導した。
現任教育として新人からリーダー教育まで指導	2007年4月～2017年3月	
臨床実習指導者	2008年4月～2017年3月	日本大学医学部附属板橋病院救命救急センターにてリーダー看護師として現任教育が円滑に進むように調整役割を担い、プリセプターの指導を実施するとともに、新人看護師から経験年数5年目看護師のリーダー教育を実施した。救命センターでは、2年目CCUデビュー、3年目初療業務デビュー、4年目蘇生業務デビュー、5年目リーダーデビューを目標としており、そのデビューに向けて新人時代に使用したチェックリストに加え、それぞれのデビューのためのチェックリストを使用し、知識・技術のチェックと、デビュー後のフォローと評価を実施した。OJTでは、各役割で求められる知識と技術、判断力や行動など、救命センターに搬送される多種多様な患者に対応できるよう、各役割に応じて指導内容を柔軟させ、スタッフが各役割で自立して看護実践ができるよう指導した。
臨地実習指導者	2021年4月～2024年3月	日本大学医学部附属板橋病院救命救急センターの臨床実習指導者として、看護学生のインターンシップの指導や日本大学医学部生の見学実習の際に、指導者として指導を担当した。3次救急である救命救急センター独自の疾患や治療が見学できるよう調整し、説明・指導した。
		臨地実習指導者として、順天堂大学医学部附属練馬病院3A病棟（ハートセンター）にて、主に順天堂大学医療看護学部2年生の基礎看護学実習IIと、西武文理大学看護学部2年生の看護援助実習を指導した。患者とのコミュニケーションのとり方や看護援助の経験、看護援助提供方法の提案などのほかに、ハートセンターに入院している患者に特徴的な疾患と看護が学習できるよう、調整・指導した。
5 その他		

職務上の実績に関する事項				
事項		年月日		概要
1 資格、免許 看護師免許 3 学会認定合同呼吸療法認定士		1998年4月28日 2002年1月1日		第1012124号 第020300号
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
感染リンクナース		2020年10月～2021年3月		順天堂大学医学部附属練馬病院Covid-19病棟にて、スタッフへの感染対策指導及び、毎月フルPPE着脱のチェックと評価、オーデット調査を実施した。Covid-19病棟の立ち上げのため病棟マニュアルと、感染対策マニュアルの作成・周知した。毎月一部の看護師が変わるため、新しくCovid-19病棟に配属された看護師を対象に、病棟マニュアルと感染対策マニュアルの説明と周知、フルPPE着脱の指導を実施した。さらに、院内感染対策委員会でCovid-19の情報共有を行い、病棟にアナウンスした。 ほかに、Covid-19病棟には、看護師経験年数1～3年目の若い看護師が配属されることが多く、重症患者や緊急時の対応、死亡時の対応が未経験である看護師が多かったため、その都度、具体的に指示・指導した。また、感染症病棟ということで、精神的なストレスがかからないように、業務中でも細やかに声をかけることで、精神的ストレスを理由に休むスタッフはいなかった。
急変対応シミュレーションの実施		2022年4月～2023年3月		順天堂大学医学部附属練馬病院3A病棟（ハートセンター）にて、急変対応シミュレーションを企画・実施した。シミュレーションは、資料の使用はなく、病棟での夜勤中の急変を想定し、3人1組で実際に体を動かして物品の準備や患者対応を実施した。シミュレーション実施後は、参加者全員でシミュレーションを振り返り、急変対応時の意識と行動変容に繋がられるようにフォローした。シミュレーションは毎月1～3回で業務時間終了後に実施し、自由参加とした。急変対応シミュレーションの企画案は心臓外科の医師にも共有し、医師が参加可能な時には、シミュレーション時に実際に医師へ連絡し、医師の指示下での対応を経験してもらい指導した。シミュレーション参加希望者が3人以下でも、参加希望があった場合には開催し、参加者の希望に沿った内容を指導した。（例：緊急時の挿管の一連の流れ、心臓マッサージの方法など）
医療安全リンクナース		2024年4月～2025年3月		順天堂大学医学部附属練馬病院3A病棟（ハートセンター）にて、病棟内の医療安全全般の取り組みと評価を実施した。インシデントレポートの種類と数の集計から病棟の特性を洗い出し、集計結果を提示し事故防止のための改善策の立案・周知と評価を実施した。
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				

<p>新人看護師の指導場面において指導看護師が伝わらないと感じた指導と新人看護師の言動</p>	<p>単著</p>	<p>2025年3月</p>	<p>修士論文 順天堂大学大学院医療看護学研究科</p>	<p>指導看護師が同じ職場の新人看護師を指導した場面で、「伝わらなかった」と感じた自身の指導とそう感じた新人看護師の言動を明らかにすることを目的とし、経験年数10～14年目の役職についていない指導看護師11名にインタビューを実施した。その結果、指導看護師は、パワハラを避けるための優しい指導や新人看護師のレベルに合わない指導などが、自身の指導が伝わらない要因と捉えており、新人看護師のレベルに則した具体的な指示を出す必要があると示唆された。また、指導看護師は、新人看護師の受け身や自分中心と感じる言動や時間感覚の違いを世代間ギャップと捉えており、指導看護師は、双方に指導への解釈のずれがあることを認識し、対象理解に努める必要があること、さらに、新人看護師が指導をどう解釈したのかを確認し、新人看護師の解釈に応じて指導内容を変えることが重要であると示唆された。</p>
<p>(その他) ワークシート作成による情報収集時間削減と業務改善への取り組み</p>	<p>共同</p>	<p>1999年2月</p>	<p>看護研究（研究代表者） 長野県厚生連長野松代総合病院院内学会</p>	<p>病棟の新設に伴い、患者数の増加と業務量が增大したため、特に夜勤で効率的な患者情報の把握と共有、業務改善を目的に、ワークシートを作成した。ワークシート作成後は病棟全体で3ヶ月運用し、その後スタッフにワークシートについてアンケートを実施し、その後ワークシートを修正し、再度運用した。その結果、患者情報の把握は簡便かつ確実となり、夜勤での情報収集時間は削減できた。これらの結果を長野松代総合病院院内学会にて発表した。</p>
<p>新人看護師の指導場面において指導看護師が伝わらないと感じた指導と新人看護師の言動</p>	<p>単著</p>	<p>2025年8月</p>	<p>日本看護学教育学会 第35回学術集会</p>	<p>修士論文（新人看護師の指導場面において指導看護師が伝わらないと感じた指導と新人看護師の言動）を日本看護学教育学会にて口演発表予定。</p>